

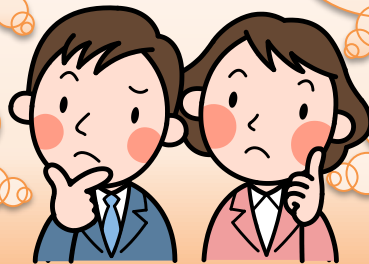
「特別の教科 道徳」 評価の手引き(中学校版)

道徳科では
何を評価するの？

生徒の学習状況を
どのように
見取ればいいのか？

通知表や
指導要録には
どう書けばいいのか？

道徳科では
どのように評価
すればいいのか？



道徳科のねらいは、「道徳性」を養うことです。



でも、道徳科では道徳性は評価しません！
内面的資質を評価することは困難だからです。



道徳科の授業の中で見取ることができた生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価します！



生徒の道徳性(道徳的行為)の評価は、これまでどおり、指導要録(「行動の記録」「総合所見及び指導上参考となる諸事項」)に記載します。



1 道徳科では何を評価するの？

※道徳科の授業で見取ることができた

生徒の学習状況や

道徳性に係る成長の様子を評価します！

※生徒の成長を認め励ます評価を行います！

【道徳科の目標】(中学校)

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う**ため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習**を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

※ 道徳科は、道徳性を養うことがねらいであるが、内面的資質であるため、道徳性が養われたか否かは容易に判断できるものではありません。

※ 道徳科の評価は、道徳性を評価するものではありません。

生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要があります。

生徒の学習状況を見取るためには、まず、2つの視点を意識して、道徳科の授業を実践しておくことが大切です。



一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させるためにどのような手立てをとるかを考えましょう。



道徳的価値の理解を自分自身との関わり中で深めさせるためにどのような手立てをとるか考えましょう。



2つの視点を意識しながら道徳科の授業を行うことで現れる生徒の姿を見取って評価することになります。



2 生徒の学習状況をどのように見取ればいいのか？

次の2つの視点に着目して、生徒の学習状況を見取っていきます。

- 一面的な見方から**多面的・多角的な見方**へと発展させているか。
- **道徳的価値の理解を自分自身との関わり**の中で深めているか。

生徒の学習状況を見取るための2つの視点は、今求められている道徳科の授業「考え議論する道徳」へと質的転換を図るための視点でもあります。

この2つの視点を意識しながら道徳科の授業を行うことで、それに沿った生徒の姿が見られます。その姿を見取って評価することになります。

2つの視点について見取る際のより具体的な視点として、次のようなものが考えられます。

具体的な
視点(例)

一面的な見方から**多面的・多角的な見方**へと発展させているか。

- ・ 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしているか。
- ・ 自分と違う立場や考え方、感じ方を理解しようとしているか。
- ・ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしているか。

など

具体的な
視点(例)

道徳的価値の理解を**自分自身との関わり**の中で深めているか。

- ・ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか。
- ・ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目しているか。
- ・ 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めているか。
- ・ 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているか。

など

指導と評価の一体化

生徒にとっての評価

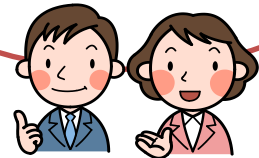
自らの成長を実感し
意欲向上に
つなげていくもの



評価は、
指導に生かされ、
生徒の成長に
つながる
評価でなくては
ならない。

教師にとっての評価

指導の目標や計画、
指導方法の改善・充実に
取り組むための
資料となるもの



評価の実際

※ ワークシートの記述や発言などから、次のように、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取ることもできます。

評価のイメージ(例)：突出したところのよさを認める

教材：「二通の手紙」
(遵法精神、公德心)

〈ワークシートの記述〉

私は、子ども達を入园させるべきか、どうかで悩んでいたが、みんなと話し合う中で、規則を破ると迷惑や事故につながることを知り、規則によって私たちの生活は守られているということに気付いた。

【学習状況の見取り】

心の葛藤が生じる場面において、他者の意見も参考にしながら、様々な視点から規則を守ることについて考えを深めていた。

教材：「一冊のノート」
(家族愛、家庭生活の充実)

〈発言〉

「ノートを読んだ時の主人公の気持ちや、そのノートを書いたおばあちゃんの気持ちを考えることで、かけがえのない家族の大切さや、家族の一員としての自分の役割に気付きました。」

【学習状況の見取り】

家族のそれぞれの立場に立って考えることで、その時の心情を様々な視点から捉え、自分の役割を考えようとしている。

突出したよさが見られたところ
を取り出すと、多面的・多角的な見
方や考え方に発展が見られた。

評価のイメージ(例)：進歩の状況を認める

教材：「ネット将棋」
(自主、自立、自由と責任)

〈発言〉

「主人公と同じように、私も、部活の試合で負けたときに、とても悔しくて、自分の負けを素直に認めることができないことがありました。やっぱり、相手に対して、心から『負けました』と言うことは難しいと思うけど...。」

【学習状況の見取り】

登場人物を自分に置き換えて具体的にイメージし、道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉えている。

教材：「言葉の向こう」
(相互理解、寛容)

〈ワークシートの記述〉

これまで、相手の気持ちを考えずに言い返してしまうことがあったが、今後「コミュニケーション」をとるときは、単に言葉を交わすだけでなく、その言葉の奥にある思いや気持ちを考えるようにしていきたい。

【学習状況の見取り】

これまでの自分自身を振り返り、自己の考えを見直し、自分なりの考えをもつことができるようになってきている。

進歩の状況を継続的に見ていく
と、自分自身との関わりの中での深
まりが見られた。

次のものを、評価の根拠資料として活用することが考えられます。

- ・ 生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの
- ・ 生徒自身のエピソードを蓄積したもの
- ・ 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程
- ・ 生徒が行う自己評価や相互評価
- ・ 教員のチームによる評価

など



道徳科の評価を学級担任任せにするのではなく、組織的・計画的に評価に取り組むことが大切です。

- ・ 評価方法等の共通理解
- ・ 評価実践事例の蓄積
- ・ 協力体制の構築

など



◎ 通知表や指導要録にはどう書けばいいの？

道徳性が育ったかどうかは、道徳科の授業だけで容易に判断できるものではありません。したがって、道徳科の評価では、授業の中で見取ることができた生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を記述します。**道徳科の評価において、道徳性(道徳的行為)そのものを評価するような記述は注意が必要です。**

通知表の様式は、各学校が独自に作成するものです。

道徳科の評価の欄を、学期ごとに設けるのか、年間1回設けるのかについては、検討しておく必要があります。



通知表の記述(例)

保護者が見る通知表には、特に顕著な状況を記述するなど、より具体的な記述が望ましいと考えられます。

(文型例)

【全体的な見取り】+【授業での具体的な姿】

指導要録の記述(例)

一部の限られた期間だけの評価をするのではなく、年間にわたって、生徒の学習状況や道徳性に係る成長がどのように見られたかを記述することが望ましいと考えられます。

問題となる場面において自分が取り得る行動を、友だちの意見も参考にしながら、様々な視点から考えようとしていました。
「一冊のノート」の学習では、家族について、それぞれの立場に立って考えることで、家族の一員としての自覚を深めていました。

問題となる場面において自分が取り得る行動を、友だちの意見も参考にしながら、様々な視点から考えようとしていた。

教材の登場人物に自分を置き換えて考えることで、これまでの行動を振り返りながら、自分なりの考えをもつことができています。
「言葉の向こう」の学習では、コミュニケーションを取るときは、言葉の奥にある思いや気持ちを考えると大切であることに気付いていました。

教材の登場人物に自分を置き換えて考えることで、これまでの行動を振り返りながら、自分なりの考えをもつことができています。

指導要録への記載については、2021年の新中学校学習指導要領全面実施までの間は、様式2の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に、道徳科の評価であることが分かるように記述することも考えられます。



「～思いやりをもって友だちと接することができるようになった。」といった記述は、道徳教育の評価であり、道徳科の評価としてはふさわしくありません。



3 道徳科では、 どのように評価すればいいの？

【道徳科の評価の在り方】

- 数値による評価ではなく、記述式とすること
- 他の生徒との比較による評価ではなく、生徒がいか
に成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人
内評価**として行うこと
- 個々の内容項目ごとではなく、**大きくりなまとまり**を
踏まえた評価とすること
- 学習活動において生徒が**より多面的・多角的な見
方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自
身との関わりの中で深めているか**といった点を重視
すること
- 調査書に記載せず、入学者選抜の合格判定に活用す
ることのないようにすること



他の生徒と比較するの
ではなく、子どもたち一
人一人のよい点や可能
性、進歩の状況について
評価していくことです。



【大きくりなまとまりを踏まえた評価のイメージ】

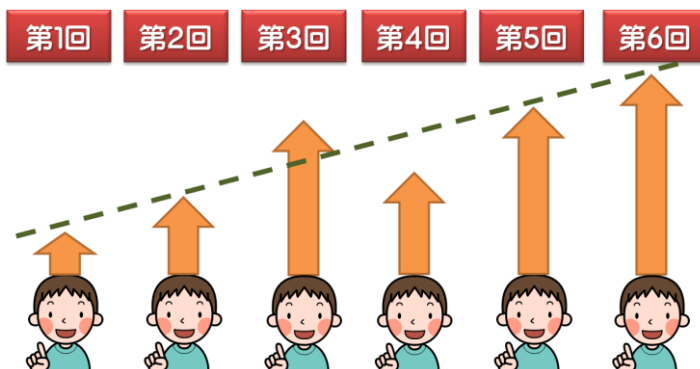
学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握しながら

〈突出したところのよさを認める〉

第1回 	第2回 	第3回 	第4回
第5回 	第6回 	第7回 	第8回
第9回 	第10回 	第11回 	第12回

(突出したよさを記録に残し、評価の資料とするなど)

〈進歩の状況を認める〉



個々の内容項目ごと
に、1時間の授業の中で
全ての生徒の変容を見
取ることは困難です。
そこで、年間や学期
といった一定の時間的
なまとまりの中で、生
徒の学習状況や道徳
性に係る成長の様子
を、継続的に把握して
評価していくことが大
切です。



Q & A

目標に「**道徳的諸価値についての理解に基づき**」とあるのだから、**道徳的価値をどれだけ理解できたかを評価すべきではないでしょうか？**



道徳的価値について理解するということは、観念的に、知識として理解するのではなく、自分の事として、自分なりの考え方として理解するものです。

他の教科等における「知識及び技能」のように、客観的な知識として身に付けることを目的としているわけではありません。

このため、道徳科の目標では、「**道徳的諸価値について理解する**」とはせず、「**道徳的諸価値の理解に基づき…自己の生き方についての考えを深める…**」としています。



道徳性の諸様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を評価の観点とすることはなぜ適当ではないのでしょうか？



「**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度**」はそれぞれ独立したものではなく、**相互に関係し合っており、切り分けられないもの**であることから、これらの資質・能力の3つの柱にそれぞれ分けて位置づけることはできないものと考えられます。

また、生徒の人格そのものに働きかける道徳科の評価としては、**観点別に行う評価（ABCの段階を付ける）自体が妥当ではない**と考えられます。



道徳科の授業ではない、普段の学校生活で見られる姿をもとに評価を行ってはいけないのですか？



普段の学校生活で見られる行動については、これまでどおり、指導要録の上では、「**行動の記録**」「**総合所見及び指導上参考となる諸事項**」として記載する要素になります。

道徳科における評価は、**道徳科の授業を行った結果として**見られた学習状況や道徳性に係る成長の様子を見るものであるため、授業の中で見られた発言や記述などを基に評価を行うこととなります。



【参考文献】

中学校学習指導要領（平成29年3月 告示）

文部科学省

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成30年3月）

文部科学省

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）（平成27年7月22日）

文部科学省

※ 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）は、文部科学省のホームページよりダウンロードできます。

* キーワード入力による検索の場合

文科省 道徳科 指導と評価

検索

* URL入力の場合 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/111/houkoku/1375479.htm